

【コピー、転送、回覧など多くの人にお渡してください。各団体各地の活動をお知らせ下さい】

メールニュース

No.21-054
2021年 10月21日

安保破棄中央実行委員会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
TEL03-3264-4764 FAX03-3264-4765

日米地位協定の抜本的改定 意見書採択228自治体(12.8%)に 黒部ダム上空を複数の米軍機飛行

東京スカイツリーそばを飛行する危険な米軍ヘリコプター



安保破棄中央実行委員会での調査で、沖縄県の東村(9月22日)、伊平屋村(9月28日)、青森県七戸町(9月13日)のそれぞれの議会が「日米地位協定の抜本的改定を求める意見書」を採択したことがわかりました。2018年7月に全国知事会が「米軍基地負担に関する提言」を採択した後、日米地位協定の改定を求める自治体の意見書採択は10月19日現在、9道県219市町村になり全国自治体(1788)の12.8%になりました。この中には、この間採択された沖縄の県議会を含む8自治体を含めました。

米軍は、日米地位協定に基づいて提供したものでない全国に7本の低空飛行訓練ルートを手勝手に設定しています。

しんぶん赤旗(10/21付)は、「富山県立山町の黒部ダム上空を複数の米海軍FA18戦闘攻撃機とみられる機体が低空飛行していたことが、観光客の目撃証言でわかりました。米海軍が日本本土に設定している低空(黄色)ルートのうち、北信越地方上空を通る『ブルールート』を利用していた可能性が濃厚です」と報じています。

政府は米軍の訓練を野放し状態にしています。国民の生命・財産を脅かす米軍の横暴な飛行訓練は直ちに止めるべきです。

各自治体での「日米地位協定の抜本的改定を求める意見書」採択と同時に、安保中央が取り組んでいる「日米地位協定の抜本的改定を求める請願」署名にご協力をお願いします。

意見書採択自治体と署名用紙は、安保中央のホームページをご覧ください。



横田基地でのCVオスプレイの訓練

「オスプレイ横田配備反対連絡会」の情報提供によると、米空軍安全センターWebサイトのCV22事故データが更新されました。「クラスA」の事故率(10万飛行)

時間あたりの事故回数)が3年連続で前年度を上回っていることがわかりました。「クラスA」事故率は17年度が4.05、18年度5.84、19年度6.22、20年度6.58と上昇しています。「クラスA」は死者または200万ドル(約2億2500万円)以上の損害が出た事故です。CV22は4月以降、青森県東北町の小川原湖上では低空飛行の危険な訓練を繰り返していたことが明らかになっています。この4か月間でも、CV22は6月に山形空港、9月に仙台空港に緊急着陸し、民間飛行機の離着陸に影響を出しています。安保中央が取り組んでいる「オスプレイの飛行中止と配備撤回を求める署名」にご協力をお願いします。

横田基地
オスプレイ

クラスAの事故率が年々上昇
飛行中止と配備撤回の署名を

沖縄 米軍機相次ぐトラブル

沖縄県の米軍嘉手納基地で基地所属のMC130特殊作戦機が10月18日午後、同基地に緊急着陸しました。第3エンジンにトラブルがあったとみられます。駐機場には自走して移動しました。

20日午後には、普天間基地所属のCH53大型輸送ヘリが粟国空港に緊急着陸しました。防衛省や県などによると、原因は操縦システムのトラブルでした。高良修一栗国村長は、電話で沖縄防衛局に抗議しました。

米軍機のトラブルは、オスプレイに限らず発生しています。政府は、厳しく米軍に抗議し安全性が確保されるまで飛行中止を求めるべきです。

お知らせ

常任幹事会(オンライン兼) 11月10日(水)午後3時~

全労連会館 8F 民医連会議室